

徳島県総合計画審議会「若者クリエイト部会」会議録

I 日 時 平成26年1月31日（金）16：30～18：10

II 場 所 県庁10階 大会議室

III 出席者（敬称略）

【委員】10名中 8名出席

青木正繁（部会長）、福島明子（副部会長）

川眞田彩、近森由記子、樋泉聡子

池添純子、岡田育大、竹内祐介

【オブザーバー】10名中 9名出席

板東純平、高木和久、榊原陽子、島知佐、

小原和浩、蔵本聖子、松本秀明、石井里奈、釋子由香梨

【県】

知事、政策創造部長 ほか

IV 次 第

（～ 現 地 視 察 ～ ）

1 開 会

2 議 事

（1）部会活動報告

（2）人口減少時代における地域を支える仕組み

～今後の徳島づくりを見据えて～

（2）その他

3 閉 会

V 意見交換

（事務局）

それでは、皆さんおそろいになりましたので、ただ今から、「若者クリエイト部会」を開催いたしたいと思えます。

それではまず、本日御出席をいただいております飯泉知事より御挨拶を申し上げます。

（知事）

まず、青木部会長さんをはじめといたします若者クリエイト部会の皆様方、本当に日ごろから本県の将来に向けての、何と云っても次世代の徳島、日本を背負って立っていただく皆様でありますので、今の日本のいろいろな制度、徳島の状況、現況、こうしたものに縛られることなく、大胆に御提言をいただいているところであります。心から感謝を申し

上げたいと思います。

今日はちょうど一年間の取りまとめということでもありますので、その取りまとめの状況、そして、できれば更にその取りまとめたものをたたき台として、更なる、特に、平成26年は徳島のエポックメイクの年、本当に陸・海・空の状況、いろいろな高コスト構造、こうしたものがどんどん変わっていく一年となりますので、是非、皆様方には、その後起こった今日までの、あるいは、これから4月、起こっていくようないろいろな事象、これを踏まえて更に大胆な御提案、御提言をしていただければと思いますので、この点につきましては、是非よろしくお願いを申し上げたいと思います。

今日の発表を非常に楽しみにしておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

(事務局)

それでは、この後の議事進行につきましては、青木部会長、よろしくお願いをいたします。

(青木部会長)

それでは、早速、進めてまいります。

さて、本日は、平成25年度の部会活動を総括する「まとめの会」ということで、まず私から、部会活動をおさらいする意味も込めまして、活動状況について報告をさせていただきます。

(青木部会長から平成25年度における部会活動について報告)

(青木部会長)

それでは、次に、ただ今御報告いたしましたように、クリエイト部会では「人口減少時代における地域を支える仕組み」をテーマに、過疎地域への二度、第3回と第4回ですね、にわたる現地視察を行い、今後の「持続可能な地域づくり」に向けた議論を行ってまいりました。

そこで本日は、「人口減少時代における地域を支える仕組み」というテーマに関して、「今後の徳島づくり」を見据えた議論をお願いしたいと思います。

現地視察やこれまでの議論を踏まえ、現状や課題などについて、皆さんが感じたこと、またそれ以外にも、「政策提言」をはじめ県の施策のヒントとなるキーワード的なものから具体的な提言まで、何でも構いませんので、御発言いただきたいと思います。

また、お手元の資料を御覧ください。本日欠席の蔭山委員さん、1番の部分です、村松委員さん、2番の部分です、からの御意見をお配りしておりますので、御覧ください。よろしくお願いをいたします。

それでは、皆さんから御意見を早速いただきたいと思いますが、私が今日は指名いたしますので、順に御発言をいただければと思います。

発言をされる際は、皆さん、お手元のマイクスイッチを押してから御発言をよろしくお願いをいたします。

それでは、一番目は、川眞田さんからよろしくお願いをいたします。

(川眞田委員)

「新町川を守る会」の川眞田です。よろしく申し上げます。

私は三好の方の視察には行けなくて、美波町の視察の方にかがったんですけれども、それに関連して、蔭山委員の③の意見とも少し似てくるんですけれども、

「柁あわえ」さんを視察したときに、「柁あわえ」さん自身が今後の取組みとして考えていることとして、移住をしてくる、サテライトオフィスをもちたいと思っている企業向けに、社員の生活面とか住居なんかを全部パッケージ化して、それを「柁あわえ」さんが提供するという事業をしていけたらいいなという話をされていて、私はそれがすごく本当にいいなと思っています。

蔭山委員も書いているんですけれども、徳島といえば、安全な食べ物があつたり、いい意味での田舎暮らしがある。あと自然を生かしているいろんな趣味が楽しめるというところがポイントになるかと思うんですけれども、なかなかいきなり徳島にやってきて、「安全な食べ物がどこに行けば手に入るのか」とか、「サーフポイントはどこになるのか」ということってなかなか急にきてわかるものではない。かといって現地の人と仲良くなるまでには少し時間がかかって、教えてもらうまでにちょっと時間がかかる。で、そのタイムラグがあることで「なんかちょっと徳島、やっぱりちょっとつままないな」という時間が長くなってしまふのがすごくもったいないなというふうに思うので、「柁あわえ」さんのものに乗っかるわけではないんですけれども、徳島県として幅広い情報網を使って、各エリアごとに、「この地域で住む」「いきなりやってきて住める」で、「住んですぐに楽しめる」ようなパッケージをつくることできると移住しやすいかと思えますし、企業の方も社員さんを連れてくるときに、徳島の魅力について説得というところとちょっとなんか嫌々来ているみたいなんですけれども、「徳島っていいな」って自主的に来てくださる社員さんが増えるのではないかというふうに思ったので、生活面、社員さんがすぐ楽しめるパッケージをつくることできれば、もっといいのかなというふうに感じました。以上です。

(青木部会長)

はい、ありがとうございます。

あと知事、部会の方ではですね、「何とか委員」をやめまして、「何とかさん」という呼び方にさせていただいておりますので、御了承ください。

それでは続きまして、近森さんお願いいたします。

(近森委員)

今回私は二回とも視察に行かせていただきました。

そこで感じたのは、まさしく「人」だと思いました。美波町でお会いした浜さんなんですけれども、私あのあと二回ぐらい、浜さんのお名前を新聞や雑誌等を見て、時の人に私は会えたんだとすごくうれしかったんですけれども、ああいう方がもちろんいることもすごく大事だなと思いました。なので、もちろん人が大事なんですけれども、そういう人材をいかに適材適所にいてくれるかというのが本当にこれからの課題だろうなと思っております。

今もここに座っておられる委員の皆さんも多分そういうことを感じていらしゃるんだろ

うなと思うんですけれども、私自身は、本当に今までこういうところに携わったことがなかったもので、どうしても受け身的な気持ちで今まではいました。でも今回こういう機会をせっかくいただいて、いろんなところで、「こういうふうなヒント、何か得られるかな」というふうに、自分自身でも何かを吸収しようと思っていますので、どういうふうなかたちでできるか私にはまだわからないですけれども、そういう人材育成というものに、県としてでも取り組んでいただければなと思います。

そして先週、知事の方に表敬させてもらったんですけど、私たちが所属しているボランティア団体なんですけれども、タンザニアの青年と、スウェーデンの青年が徳島に三日間先週滞在しまして、帰りの飛行機の中では「徳島すごいよかったね」というふうにみんな感激して東京の方に帰って、続きのプログラムに参加したという話を聞きまして、徳島の提言の中にもちょっと書いてあるんですけれども、徳島には海もあり山もあり川もあり、知事もおっしゃってましたけれども、それは本当に徳島の魅力であって、これからも本当に私たち自身も守っていかなければいけないものだと思っています。

一度触れると本当に魅了されてしまうこういう徳島を、これからも持続可能な社会として、徳島県としても守っていただけたらなと思いました。

(青木部会長)

ありがとうございます。

それでは続きまして、樋泉さんお願いいたします。

(樋泉委員)

神山町の「NPO法人グリーンバレー」に所属しています樋泉と申します。よろしくお願ひします。

私は、美波も三好の方もちょっと今回行けなかったんですけれども、神山も含め、その三地域はサテライトオフィスの取組みをしている地域でして、私は神山にいながらサテライトオフィスの担当ということで働かせてもらっているんですけれども、現場にいて思うことは、やっぱりすごく今おもしろい人たちが集まってきているなど、とてもすごく前向きに明るく捉えています。

それを支えているのが実は、「グリーンバレー」の名前は良く出るんですけれども、やっぱり町の人だったりとか、徳島県庁さんとの連携がすごく上手くできていて、例えば、三地域にそれぞれ皆さん、サテライトオフィスでくる企業が行くときは「シェアカー」というものを使ったりするんですね。シェアカーの取組みというのは徳島県庁さんが空港ビルさんにかけてくださって、なかなか時間がかかるところを、そういった民間じゃできない働きかけというのを行政の方がしてくださったことによって、シェアカーを使って、みなさん空港に着いたらすぐ、美波だったら二時間で行ける、神山だったら一時間、三好だったら一時間半ですぐ行けるという環境を用意したおかげで、いろんな企業さんが入って来やすくなったりします。

なので、本当にこのサテライトオフィスに関しては、行政だったり、民間と地元とが本当に上手く連携していて、それぞれのできる分野をそれぞれが働きかけてくださったおかげで、今のような動きになっているのかなと思うので、今後の徳島らしさとか可能性とい

うところは、それぞれが「上手く連携していく」というところなのかなと感じています。

(青木部会長)

ありがとうございます。

それでは続きまして、池添さんお願いいたします。

(池添委員)

今までの委員のお話とも重複するんですけれども、私は美波の方の視察だけ参加ができたんですけれども、やっぱり美波の方に行く機会は少ないんですけれども、行くとなんか心が安らぐというか、なんか漠然と「いいところだな」と思ったという印象があります。

やっぱり、第2回の会議で政策提言の話をしたときにもいろんな意見が出たんですけれども、「新しいものをつくる」というよりは、「今ある徳島のよさ」「今やっていること」に、少し何かエッセンスを加えて、「これはすごい新鮮なことなんだよ」とか、見せ方次第で、徳島に住んでいる若者自体が、なんとなく「ここは田舎だ」とか「ここは嫌だな」という思いを持っている学生も実際に高専の学生でもいるんですけれども、そうではなくて、「すごく魅力的なところであるんだよ」というようなことがわかるようなエッセンスを加える、例えば見せ方を変えるということだけでも、とても違った徳島になるのではないかなというふうに、お金をかけなくても、今ある徳島の魅力、地域にある魅力、海、川、森というのがあるのではないかなということを、みなさんのお話もお聞きしたり、美波の方に行ってすごく感じました。

例えば、建築の方の分野でいきますと、空き家で置いてあるものであっても、ただの民家ではなくて、もう日本にはあまり残っていないような民家というのが放置されているということも、まだまだ佐那河内とかでも多数あると思いますし、やっぱりこの二・三年放っておくことによって、今はまだ手を入れたら間に合うものが、どんどん時間の流れで、人が出ていくことによってなくなってしまおうというようなこともありますので、やっぱりそういう「徳島のよさ」はもう一度どういうところにあるのか、で、特に建築物で「徳島といたら何があるか」と言われると、あまり観光名所というか、有名な建築というのはないとは言われているんですけれども、じゃあ逆に「これだけの民家が揃っているところがあるか」と言われたら、きっとすごくいいものが残っていると思うので、そういうところにもフォーカスをした「空き家の活用の仕方」というのもあるのではないかなと思いました。他にも農村舞台であったりとか、まだあまり注目は全国的にはされていなくても、ピックアップできるところがあるのではないかなと思いました。

やはり、「人口減少時代」ということで、どうしていったらいいかなと考えると、もうすごくいろんな課題があると思うんですけれども、私自身の立場から申し上げますと、二人目産んで育児休業中なんですけど、四月から復帰するに当たって、子育てと仕事の両立、家庭との両立というのが直面をしまして、どういうふうに回していこうかということ常日頃考えているという身ということで申し上げますと、やはり女性だけが働きやすいだけではなくて、男性も働きやすく育児もしやすい環境を一緒に整えていかないといけないのではないかなというふうに思います。

もちろん、育児休業制度というのは男性も取れることになっていきますし、ワークシェア

も部分休業というカタチで、制度的には整っているんですけども、やはりそこまで活用されていないという現状がありますので、ここは思い切って、「全国の自治体の中でも徳島県が一番働きやすい場所」である。じゃあどこがそれをしだすのかといいますと、やっぱり県庁で、「徳島県庁は全国の県庁の中でも一番仕事がしやすく、今から若者が公務員を目指すのであれば、徳島県を受験をしたい」というような、働きやすさという面でも、そういう環境をつくれば優秀な人材も集まるのではないかと思いますし、それを県庁さんがしていただけましたら、市町村も準じたり、そこにある企業も準じることができますので、ニーズがどういうものがあるかというのをまずは調べないといけないと思いますけれども、働きやすい環境イコール県庁に優秀な人材が集まって、県勢もよくなるのではないかというふうに感じております。

(青木部会長)

ありがとうございます。

それでは続きまして、岡田さんお願いいたします。

(岡田委員)

僕自身が徳島の課題と感じていることというのはありすぎて言いきれないぐらいなので、ポジティブなところで、「どういうところがいいか」と言うとやっぱり多分、「ハートの部分」というか「心の豊かさ」。東京にいたらやっぱりストレス社会で、すごくストレスと隣り合わせの生活をしているんですけども、「心の豊かさ」を満たしてくれるのが徳島のいいところなんじゃないかなというふうに思ってます。

でも、「心の豊かさ」というのは、神山もそうだと思うんですけど、自然があれば豊かかということ、実際そうじゃなくて、多分、ブロードバンドであったり、インフラがしっかり整っているからこそその「心の豊かさ」みたいなのも多分あると思うんですね。だから、「心の豊かさ」だけではなくて、経済的な豊かさもしっかり県としてのインフラづくりでやっていかなければいけないことなんじゃないかなというふうに思ってます。

そうすることで、若者は若者で東京で働いててもやっぱり十分に充実してなくて、「心の豊かさ」を求めて、再認識するために徳島に来る。あとは高齢者の方々は、単に社会福祉施設に入るのではなくて、働いて自分が老後にできること、ご飯をつくることであったり、誰かをもてなすこともそうなんですけど、自分の伝統的な知識を若手に教えてあげることとか、自分が人生でできることをしてあげる。それがもしかしたら、働くことなのか、ボランティアすることなのかかわかんないですけど、高齢者の方々もしっかり働けるインフラがつくっていったらおもしろいんじゃないかなというふうに思います。だから、それも「心の豊かさ」につながってくるかなと思います。

具体的には、人口減少の中でやっぱり何を増やすかと。交流人口も増やさなければいけない中で、観光はやっぱりもうちょっと力を入れたいなど。特に叫ばれているのが「インバウンド」で、世界中で各県が今競い合って提案をしている状況の中で、僕も先週、香港の徳島県人会になぜか参加してきたんですけど、「香港へのチャーター便」とかというのもすごくいい取組みだというふうに思いますし、向こうでの評価もすごく高くて、でも他の県と比べたら徳島は四十何位、海外からの旅行者というか滞在者数というか低いところも

あったりするので、その観光としてのインバウンド誘致もちょっと力を入れていきたいな
というか、僕はまったく仕事とは関係ないんですけど、そういうことも手掛けていたら
おもしろいなと思ったりとか、あと、海外旅行者が来たときのおもてなしするのは若者で
あれば若者はおもてなしできるんですけど、例えば高齢者がおもてなしする場合に、英語
ができないとかいったときに、これもまたブロードバンドが役立つというか、スマホで大
体聞かれることをリストアップして、「あそこどこですか」「これですよ」みたいなのを
高齢者の方々が言えるような態勢をつくってもおもしろいんじゃないかと。そういうデ
ジタル化のインフラづくりというのも、おもてなしというか、「心の豊かさ」をお互い感
じ合うために必要なんじゃないかなというふうに思っています。

あとは、「心の豊かさ」を感じるためには森づくりだったりとか、街路樹もやっぱり木
が少なかったりとかあるので、55号バイパスでも木があるとすごく安らぐんだろうなと。
朝の渋滞も安らぐんだろうなとか思いながら走ってたりはしますけれども、「看板が見え
ない」とかいう苦情もあると思うんですけど、やっぱり木があることで安らぐ部分とい
うのもつくっていったらおもしろいかなとか思います。

可能性としては、「心の豊かさ」を売るという意味では、徳島はナンバーワンに近いん
じゃないかなというふうに思っていますので、やっぱり老後も楽しく暮らせて、お年寄りも
みんな移住してくるぐらいの県にできたらおもしろいかなというふうに思っています。

(青木部会長)

ありがとうございました。

それでは知事、これまでの御意見等について、御感想などをいただければと思いますが。

(知事)

今、お話を聞いていて、大体出てきてるんじゃないのかなということなんですけどね。

よく地域活性化をする、あるいは、地域でのいろいろな掘り起こしをするとか何とかと
いった場合に、一番ポイントになるのは、「外の目」「若者の目」それからもう一つはよく
「バカ者の目」と言うんだよね。「若者」じゃないよ「バカ者」ね。つまりそれは、「それ
に熱狂する」というか「徹底的に集中する」という意味ね。この三つとよくいわれる中で、
でも今、その「外の目」とそれから「若者の目」という話もいただいているところ。

それからもう一つは、先ほどの「古民家」の話、これについて、例えば従来我々もう一
つあるのが「耕作放棄地」ね、これと古民家って共通しててね。で、これは放っておくと
どうにもならないわけ。さっき池添さんからお話があったように。でも、ちょっと3年と
か5年とかの間に手を入れたら宝物に切り替わるんだけど、それをポジティブに考えない
と。岡田さんも言っていたように、もう一つは「ポジティブに考える」ということ。

例えば、樋泉さんのグリーンバレーの話があるんだけど、グリーンバレーの人たちとい
うのは、神山町というのは「過疎化の町」って従来から言われているじゃない。そうす
るとね、「そこを選んでほしい」「移住してきてほしい」「ほしい、ほしい」ってこういう世
界になるのね。ところが、大南さんがどう言っているかというのと逆よね。「いや、グリー
ンバレーが、あいるは神山町が選ぶんじゃない」って。「上から目線でないか」って思
う人がいるかもしれないけど、そうじゃないのね。やっぱりプライドを持ってこの神山町でし

かりとね、「仕事がないんだったら、仕事を持っている人に来てもらったらいいじゃないか」と「逆転の発想」なのよね。みんなは「そんな人来てくれない」と思っているわけ。そうじゃない、やっぱり「ポジティブに考える」ということ。それと同時に、自分のところのポテンシャル、潜在能力ってプラスもマイナスもあるんだけど、これをしっかりと自分で把握しておくというのが重要ね。ただ、ここが実は難しくて「外の目」が要るわけ。

例えば、私が勤務した山梨県ね。今度、富士山が世界遺産になったじゃない。でもここまでなれなかった、逆に言うと。なぜかって言うと、山梨の人でも静岡の人でも富士山見ててね、私なんかを見ると「いや今日の富士山すごいわ」と言う。そしたら部下の人が「そうですか」みたいな。また違う角度から見て「いや今日の富士山最高だよ」としばらく言ったら「課長、急いでください」と。「何でそんなにね、富士山見て感動しないの」と。答えは簡単よ。「いつもあるから」って。だから、いつもあることに対してまったく無感動になってしまっているのね。そのかわりおもしろいのは、この人たちを外へ連れて行ったらどうなるかというとね、山梨の人たち、やっぱり大学、東京に行ったりするのよね。そしたら情緒不安定になるんだって、関東平野のど真ん中にいたら。自分の位置関係がわからない。いつも富士山を見てて、あそこは富士山、甲斐駒ヶ岳、それと八ヶ岳とこの三つで自分の位置関係がわかるわけ。ところが関東平野、東京のど真ん中にいたらね、見えないのよ山が。ときたま天気の良いときに富士山が見える、あるいは筑波山が見えるぐらいなんよね。でも筑波山も低いからほとんど見えないわけ。そしたらね、情緒不安定になって山梨に帰りたくなるんやって。

だから、山梨を出てない人はいつまでたっても、「富士山はそこにあるわ」という世界ね。ところが、一旦大学でもいいから外へ行って「外の目」で見ると、「いや、心のふるさとなんや」って。「富士山何とかしよう」とこうなるわけね。で、長年の百年戦争で静岡といつもけんかばかりして、あの山頂はどっちか県境が定まっていなかった。浅間神社の持ち物になっててね、大損してたのよ。交付税の算定に入っていないから。毎年何億も損していた、両方が。これは鳥取県と島根県の宍道湖中海のところにもあったんやけどね。でも、最近はお金なくなると、途端にポジティブになるんやな、あれ。お互いもうこれやろうと言うてさ、直ぐ手を結ぶんよ。それでお互い毎年何億もゲットみたいなね。

ということで、実は逆転の発想をしてみるとか、あるいは、外から少し見てみるね。「傍目八目」ってよく囲碁とか将棋の話で言うでしょ。そういうかたちで「外の目」。

で、逆に徳島の人だって、徳島から一旦外へ出て、東京、大阪から徳島を見るとか、そうするとまた「外の目」になるのね。岡田さんなんか現にそうしているわけでしょ。東京から見ているわけよね。そしたら良さもわかるわけ。

ということで、今皆さんおっしゃっていただいたのはまさにそのとおりで、あとはそれをどうポジティブに活かしていくのか、ここのところが一番重要。

だから、まずはやっぱり己を知っておくという、自分の持てる、徳島なら徳島のポテンシャルをきっちりと知って、ときにはやっぱり「井の中の蛙」にならないように外から見る。日本全体の場合には海外から見る。おそらくこの中でずっと徳島にいた人、岡田さんの言った「香港の徳島県人会」を聞いたら、「えー」って。徳島、香港に県人会あると思わない。実は上海にもちゃんとあるし、みんなあるのよ。ドイツにもあるのよ。けどほとんど知らないでしょ。「いや、そんな徳島の県人会が海外にあるわけないわ」と思うじ

やない。そんなことない。そういつてね、どんどんどんできています。そういうところを通じて日々ファンが増えてくるということになるのでね。

是非、皆さんがおっしゃっていただいた「全体的にまずポジティブに行く」ということ。見方というのは表裏どっちから見るかだからね。ポジティブに行けるのか、あるいは、ネガティブに行くのかということになるので。

それと、やっぱり必ず外の目を持ってもらいたい。あるいは、外の目を持った人と一緒に行動してみて、どういう反応をするかということを見てもらいたい。そして、「若者の目」はいうまでもなく皆さんの考えなんでね。

とにかく若いうちは、もうとにかく「規制でこうなっているからしょうがない」、こういうことを絶対に思わないということね。

先ほど徳大でやった話も紹介してくれましたけど、私が商工労働部長とか県民環境部長だった今から13年前、県庁の若い子たちに「徳島県ってどこ売りなん」と聞いて、みんな何と言ったか。異口同音よ。十人聞いて十人が言った。「徳島県、なんじゃないけん。部長」って。「何じゃない県」という県なんかいなと思うぐらいにね、堂々と言っちゃうんよ。

ところが、大学で若い子と対話集会する、講義をする。みんな堂々と言うわね。「知事、徳島県てね、いい県なんですよ。『GU』もあるし。今度J1ですよ。」とか言ってる。ばんばん言ってくる。「本当、いい県だね」って、こっちがもう焦るぐらいに「ワー」って言ってくるわけよ。

だからこの間、統計の数値の中で、若者に聞いて「徳島県にずっと居続けたいかどうか」、とうとう5割超えたよね、居続けたいという人が。昔は違う。みんなほとんど外に出たいという人が多かった。ころっと変わった。それがね、「内向きだ」と言う人もいれば、いや、徳島がそれだけ豊かになってきた。特に若者にとって豊かな県になってきた。可能性を開花できる県になってきた。外に向けて「徳島だよ」って言えるようになってきたというね。

昔はよく、関東に行く、あるいは、もうちょっと上の世代の人が大学で関東に行ったら、「どこ出身」と言ったら、「徳島」って言わなかったっていうのね、みんな。「四国」とか。「ああ四国。四国のどこ」「ウーん、とかって言う」っていうのね。何でもっと「徳島」ってストレートに言わないのねえ。まあそんな感じだった。

「列車」、「みんなが電車と言ってたら恥ずかしい」と言っている。「列車、汽車しか走ってないのよ、うち」って。「もう、それだけで会話できなくなる」とかね。「ちがうだろ。だったら、それを走らせてみようぜ」とどうして考えないのって。そしたら、「DMV」の話もあったり「スマートベスト」の話もあったり、そういう発想。つまりピンチがチャンスになるわけね。「ないんだったら走らせてやろうぜ」って。「パンタグラフなんかいらねえよ」って。「何でそう思わないのかな」って。私なんか常に思うわけね。「それは、変わってる」ってかつてよく言われたけどさ、それが「若い」ということだと思っただよね。

今、法律がどうだとか、財政がどうだとかね、「四国に新幹線が走る」と記者会見で言った途端に、若い記者も含めて、年配の記者が多いけど、「そんなお金、知事どこにあるんですか」と。「アホちゃうか」って。「それを稼ぎ出すために新幹線を走らすんだろ」って。今、世界中のオイルマネーにしたってどこにしたって、何か新しいものに投資したく

てしょうがないんだから。何も税金でもってすべてやる必要はまったくないわけ。儲かる
ところに金は集まるわけ。それが昔と今とは全然違うところなわけだから、それが今言っ
ている「成長戦略」、「3番目の矢」なんでしょ。新幹線の技術をどんどん売りまくって
いるじゃないですか。だったら今、地震大国を走る新幹線ってまだないわけよ。火事にも弱
いわけ。有楽町で火事になったら、あれだけで山陽新幹線まで止まるんだから。あれ何と
かせないかんわけ。そういったことを日々やっぱり皆さんも思ってもらおう。それが「若さ」
なんよね。ということで、私も年の割に若すぎる部分があるのかもしれないけどね。

また、あと後段をお願いいたします。

(青木部会長)

知事ありがとうございます。

それでは、引き続き御意見をいただきたいと思います。竹内さん、よろしくお願
いいたします。

(竹内委員)

「 Dankソフト」の竹内と申します。ちょっと知事の後なのでかなりしゃべりにくくな
ってしまいましたが。しかも、ちょっとネガティブな話を考えてきてしまったので、話し
にくいんですけど。

ちょっと勉強させていただいて、やっぱり少子高齢化とか過疎化というのは大きな問題
だなと感じました。

で、それを防いでいく手立てを考えるとというのはもちろん大事なことなんです
が、人口ピラミッドとか見てもここ数年はどうしても続いてしまう可能性が高いと思
います。そうしたときに、人がどんどん減っていくと、行政にかかるお金や人もどう
しても減ってしまうと。そうなったときに、今までどおり、人が徳島県全域に広
がっていると行政サービスの質がどうしても落ちてしまうと。

で、ちょっと考えたのが、行政サービスが厳しくなってきた地域の方を少しづつ
集約していく。行政サービスが潤沢にできるところに、早い話、引っ越してもら
うと。で、それに対して助成金を出すとかという手助けをしてはどうかなと思
いました。で、これはそんなに簡単じゃないというのは僕も重々わかって言
っているんですけど、例えば、「住み慣れた土地から引っ越せ」というのは無
茶な話ですし、「助成金出すからといって、それに手を挙げると残された
人がますます厳しくなるじゃないか」とか、問題は山積みなのはわか
っているんですけど、漠然としたイメージとして思いました。

もう一つは、過疎化対策なんです。子どもをもっと徳島県で産んでもら
わないといけませんので、「婚活」をもっと推進してはどうかなと思
いました。で、徳島県に「婚活課」をつくと。ちょっと「婚活課」とい
うので、グーグル検索してみると、あんまりないんですね。佐賀県伊
万里市の市の課としては「婚活応援課」というのがちょろちょろと
検索でヒットしたぐらいで、あまり大々的にはないので、それを「徳
島県が一番に婚活課をつくりました」とすれば、少しアピールできる
のかなと。そうすれば県外から来てくれて、そのまま徳島県で結
婚して根付いてくれる方もいるんじゃないのかなと思
いました。

職業柄ICTの話とかしなきゃいけない気もしたんですけど、いい提案が思
いつかなか

ったので以上です。

(青木部会長)

はい、ありがとうございました。

続きまして、福島副部会長、よろしく願いいたします。

(福島副部会長)

失礼いたします。皆さんのお話をうかがってまして、これまで議論をしていた中でたくさん出てきた問題をもう一度言っていたり、他は「現地に出向いたときにこんなことを感じたよ」ということを含めて言っていたんですが、私はこのタイトルになっているとおりに「人口減少」というのはかなり大きな問題だなと思っています。

「人口減少」というのは、それだけで、例えば労働人口が減るとか、労働人口が減ることによって経済がちょっと不調に傾いていくとか、そんなこともありますし、また、防災に関してもハード、ソフトの対策を考えても、災害弱者を支える人がまた減って行って、「じゃあどうするの」という、本当に人口減少や少子高齢化に端を発する問題というのはかなり広くて根深い問題だなというようなことを感じています。

先ほど近森さんがおっしゃったとおり、「徳島県が有する可能性」というのは、自然もさることながらなんですが、「人」かなというふうに思っています。

で、「何かこんな人がいるよ」とか、「徳島県内ではこんな有名な人がいるよ」とか、「こんな活動をして皆さんに知ってもらっているんだけど、いざ県を出ると何か聞いたことがある気がするけど知らんな」とか、そんな人も結構いらっしやると思うんですね。

何をこの若者クリエイト部会で申し上げようかとちょっとだけ先ほど考えたんですが、若者クリエイト部会らしい意見とみなしていただいて、ちょっと突飛な意見を今から申し上げます。

「人」はかなり重要だし、「人」が宝と。で、徳島県、自然もそうだし、雰囲気もそうだし、建物もそうなんですけど、いろんな財産がある中で、「人」というのを「徳島県人名鑑」みたいなものを作って、リスト化して、今って徳島県で言うと、農産物だとかいろんなことを認定して行ってブランド化して行って、徳島県のこんないいものがあるって、で、こういう可能性があって海外に輸出もできますよというようなところがあるんですが、「人」の名鑑を作って「こんな人に会いに来てください」「こんな人が外に出ていきますよ」というような何かそんなリストを作っていくと、「何かこの人に会いたいからちょっと徳島に行ってみようかな」とか、「こんな取組みをしてるから行ってみようかな」とか。

で、「人」そのものだけではなくて、取組みの内容とか、企業とか、いろんな団体も含めて、いろんなところをリストアップして、徳島県で認定をして行って、それをまずは全国、で、すぐ世界に発信をしていくと、かなり可能性が広がるのかなというふうな気がしています。

で、やっぱり人口減少は大きな問題で、じゃあ「来てもらうにはどうしたらいいか」ということなんですが、先ほど知事からお話もございましたけれども、「来てもらう」ということだけ考えなくて、こちらから選んで、「こういう人は、こういうところに、徳島に来るとあなたの可能性が広がりますよ」とか、そういう提案が行えるような取組みをする

のが一つと、あとはやっぱり「住んでもらう」ということに関しましては、先ほど岡田さんもおっしゃったんですけど、観光、交流人口を増やしていくということがかなり重要な要素で、自分の専門分野にちょっと引っ張ってくると、理論的にも数値的にも統計的にも、観光が増えるとやっぱり住んでくれる人が増えていくと。いいところを知って、何回も何回も来てみて、もっといいところを知って、じゃあここに住むと住居もあるし周りの人もお友達だし、で、お仕事も自分で探すなり、今度知り合いになった人たちに「何かないん」と聞いて提供してもらったり、何かそんなのがあって、「観光があつての人口移動というのがあつて」ということは、研究上でも現在のところは証明されていますし、こう考えてみると、「引越すするに当たって一回まあ行ってみようかな」と。転勤とか、この大学どうしても行きたいからとかという、そんなこと以外で「引越してみようかな」と思っている人ってその地域に一回行ってみるんですね。で、一回行ったらもっと見たいなど。で、何回も何回も行ってというところなので、まずは観光で人に来てもらわないとだめと思っています。

で、今、ヴォルティスがJ1に昇格して、知事をはじめとしていろんな方々が「どんどん人に来てもらいましょう」と。で、その可能性はかなり本当に広がったので、それをきっかけにいいところを知ってもらうようなリストを作って、みなさんにどんどん発信をしていくというような、とりあえずは情報発信をしないとだめなので、自分たちで「自分たちがどんなものなのか」、で、「自分たちが住んでいるところがどんなところなのか」という現状の把握を本当にしっかりとしていけないとだめかなという気はしています。

で、何か計画を立てたり、次、取組みをどうしようとか、政策をどうしようとか考えるときって、「こうなってほしいな」という目標はあるんですが、じゃあ、「そこに行くまでにどうしたらいいか」というのは、やっぱり現状を知らないとだめだと思うんですね。なので、今「多分こうだろうな」と思っていることっていうのは、もしかしたら、既成概念とか固定観念とかにとらわれているというおそれもありますので、もう一回、ちゃんと今の厳しい部分も「本当はよかったな」と思う、ポジティブ、ネガティブと両方あると思うんですが、やっぱり現状をもっともっとしっかりと把握した後、これもまあまあ余裕が要る話なんですけど、現状を把握した後、じゃあ、「ここまでなりたいな」という目標まで、この現状と目標のギャップをどう埋めていくかということに、今後の取組みに関するヒントとか、すべきことというのが潜んでいるので、その辺りの把握というのはしっかりとっておかないとだめかなということを感じています。

で、あともう一点、私は西の現地にうかがったんですが、現地にうかがったところの感想では、「いろんな取組みをしたいし、こんなところを困っているし、本当はこうしたいんだけど」とかというようなことがあって、「だけど、どうしたらいいかわからない」とか「こうしようと思っているけど」というのを、こんな私がうかがっても、「ちょっとそれって何かいけますか」みたいなのところがあったりもしたので。

本当に困っている自治体の方とか、「地域で取り組もうと思っているけど、どうしたらいいかわからない」という団体の方、個人の方がいらっしゃると思いますので、やっぱり県庁がトップに立っていただいて、相談をしやすい、県庁がこれをしなさい、県からこうしなさいというのではなくて、向こうから来るようなことを掘りだせるような、すぐ相談ができるような仕組みづくりとか、態勢づくりとか、雰囲気づくりをしていただけたらあ

りがたいというふうに思っております。

なので、取りあえずは「人」のリストを作っていただいて、「ウィキペディア」とかの一番下に「徳島県人」とか書けるように、何かそんなところからかなと。これはあまりお金は要らないと思いますので、まずできるところからなんですけど、たくさん問題もあるとは思いますが。

特にこれは竹内さんに聞きたいと思いますが、こういうのって、「人」とかっていうのをリストアップしてSNSで出したり、オープンでネットで見られるようにするのってかなりの問題がありますでしょうか。肖像権とか、何か写真載せようと思ったらそんなんもありませんね。ICTの関連で何か問題とかあるのかなというところがちょっと疑問で。

(竹内委員)

肖像権とかは本人の許可さえあれば大丈夫かなとは思いますが、あと技術的にもそんなに難しい話ではないと思います。データを集めて公開するという話なので大丈夫かなとは思いますが。

(福島副部長)

「誰がまとめるか」かと思っておりますので、まとめていって、その方・部署が大変になると思うんですが、まとめていって認定してもらって、で、個人の許可をとって、いろんなところに広がっていったら徳島県、取組みをすること自身で活性化にもつながりますし、それが成果物として出てきたときに、また外への影響等を考えると、地域の活性化の両面であるかなというふうに今感じております。

(青木部長)

ありがとうございました。

続きまして、小原さん、よろしく願いいたします。

(小原オブザーバー)

徳島市企画政策課の小原です。よろしく願いいたします。

今回いろんな場所の視察なんかを通じまして、人口減少や高齢化で地域の活力が失われつつあるというのを改めて実感した気がします。

特に津波避難に対して、地元の高齢者の中で「あきらめ感」が見られるというのは非常に衝撃的でした。

で、またそれとは逆に、同じ海沿いでも、サテライトオフィスで若者が生き生きと働いているのが対照的で印象に残りました。

このサテライトオフィスの取組みは実際に移住される方もいたりして、すごく素晴らしいと思いますので、今後、徳島にオフィスを構えることのメリットですとか、他地域との差別化なんかを図るような取組みが進んだらなと思いました。

それからまた、由岐を見に行ったときに、皆さんの間で「まつり」がキーワードという話がありましたけれども、サテライトオフィスのみんなが地域の祭りに参加する、また、避難訓練を祭りに見立てた「避難まつり」とか、そういう「まつり」というのが、すごく

地域の一体感をつくったりするのに役立つなど。また、もし地域を離れても、祭りにつながりが継続するんじゃないかと思いました。

それで、徳島といえば、やはり日本を代表する祭りである「阿波踊り」がありますので、ちょっと東京で踊りをしている人から聞いた話なんですけど、東京では地元の祭りはあるけれども、元々昔からの住民しか参加できない。で、自分の祭りとしてなかなか気持ちが入っていかない。それに対して阿波踊りは、「連」に入るとだれでも参加できて、「連」に入って初めて自分の祭り「マイ祭り」ができたというので、すごく喜んでいて人がたくさんいるって聞いてます。

そこで、この「マイ祭り」というので、徳島の阿波踊りをもっともっと広くアピールして、日本人みんなの「マイ祭り」になって、スペインといえば「フラメンコ」、アルゼンチンといえば「タンゴ」みたいな感じで、日本といえば「阿波踊り」というような状況になれば、すごく将来の徳島は求心力が上がるんじゃないかなと思います。

ということで、この20年後、30年後、高齢化が進んだころに、徳島が阿波踊りで全国から注目されて、日本中にむしろ元気を与えていく、「日本に徳島がないと困る」と言われるような、そういう県であっていただけたらと思います。

(青木部会長)

ありがとうございました。

では、続きまして、蔵本さん、よろしく願いいたします。

(蔵本オブザーバー)

小松島市の契約検査課におります蔵本と申します。よろしく願いいたします。

今までの皆さんの話を聞いてすごく印象的だったのは、やっぱり福島さんの「徳島県人名鑑」です。できた暁には是非第10号以内に私の名前を入れていただきたいなというふうに思います。

余談はさておき、数日前にヤフーニュースか何かで見たんですけども、NPOが出している「田舎暮らし移住先人気ランキング」というのを見た方もいらっしゃるかもしれないんですけども、一番が長野県で、二番が山梨県で、三番が岡山県でというふうに続いていったんですが、残念ながら徳島はベスト10には入ってなかったです。

で、ちょっとその先を調べて徳島が何位にいるのかというのを調べたかったんですが、ちょっと何位かというのまではわからなかったんですけども。

例えば、名前が挙がっている県に「共通して言えるのは何か」というのを考えたら、やはり「発信力」と「先取りする力」というのがあるのかなというふうに思います。例えば、隣の香川県でしたら今「うどん県」というふうに発信をしていると。熊本県だったら「くまモン」でかなり知名度が上がっているということで、「徳島にしかできないこと」とか「徳島でしかできないこと」というのを、発信するだけでは他の県と同じ土俵に立っているだけなので、いかに他の地域がしてないことを先取りしていくことが重要かというふうに感じました。

そういうふうになっていくためには、具体的にはどういったことが言えるのかなというふうに考えた時に、かなりピンポイントな内容で恐縮なんですけど、全国で初めて二回の国

文祭をしている「文化に強い徳島」というふうな面から言うと、例えば、ターゲットをお金も時間も余裕のある年配の方に絞っていくと、「俳句」というふうな趣味があるんですけども、四国で言ったら愛媛の松山が俳句のまちなんですが、徳島も俳句を楽しめるまちにしてはどうかと。

俳句をしている方というのは、当然、頭の回転なんかも同年代の方に比べていいですし、いろんなところを歩き回って俳句のネタを探すんですけども、歩き回ることによって、足腰も鍛えられて、より健康的になっていくというふうな感じです。

で、徳島で俳人として有名な方はどんな方がいるのかなと考えたら、少し前でしたら、武原はんさん、で、今、瀬戸内寂聴さんも俳句をされてますし、若い世代でいえば、城東出身の大高翔さんとかいう俳人がおいでます。こういう方というのは、当然知名度がありますので、こういう知名度を持った方に発信をしてもらうというのが大切なのではないかなと思います。例えば、当然今もあるんですけど、「全国的な俳句大会」というのをすると、全国から人が集まって来るので、観光客も増えていくのではないかなというふうに思いました。

逆に、若い世代にターゲットを絞ってどういうことが考えられるかと言うと、大学生が地元に戻るUターンの議論なんかも昔からあるんですが、それを逆に捉えて、「徳島の大学に来た方は地元に戻らないぞ」ぐらいな勢いで、大学に来て、徳島で就職して、生涯徳島で暮らせるというふうなことになったら最高だなと思うので、そのためには、例えば、就職先であるとか、自分で起業したい「アントレプレナー」を育てるというふうなことで、「起業しやすいまち」にするとか、そういった対策も必要になってくるのではないかなというふうに思います。

(青木部会長)

ありがとうございました。

では、続きまして、松本さん、よろしく願いいたします。

(松本オブザーバー)

神山町産業建設課の松本です。

いつものことなんですが、町の方では農業の係をしますので、農業に課題を重ね合わせて発言をさせていただきます。

人口減少とか過疎というのは、やっぱり就労機会に直結していると思うんです。サテライトオフィスにしてみても、やはり地域を支えるにはしっかりと仕事がないと、なかなか支えられないという現状かと思います。

中山間地域の多い徳島県はやはり農業が中心になる産業と言っても過言ではないのかなと思います。で、そのためにいろんな意味で農業を強化しなければならないと思うんですが、施策とか流通とかいろいろ課題はたくさんあると思うんです。でも、やはり農業をしてみたいという方がいないことには何も始まらないと思います。で、それをどうやっていくかということなんですけど、徳島で生活をしていると、農地ってすぐ身近にあるんですけど、意外と身近であって身近でないような気がするんです。「田んぼあるな」というのはあると思うんですけど、実際に小学校とかの体験とかでしたことはあるとは思いますが

ど、それは、僕のイメージではどっちかといえば「食の教育」という意味が強いような気がするんです。「食の教育」ももちろん重要なんですが、「農業の魅力」というのを、小学校とか中学校、高校と伝えることができるような仕組みづくりというのが必要だと思うんです。

農業って実は所得を得るだけでなく、国土の保全だったりとか国民の食を支えるという非常に「カッコいい職業」だと思うんですね。で、その「カッコいい」というのがいまいち伝わってないところがあるので、さっきの福島さんの話じゃないですけど、「カッコいい農業者の名鑑」に載れるぐらい、カッコいいライフスタイルというか、ファッションであったりそういうものでもいいと思うんですけど、「農業やってみたいよな」という、職業の一つとして身近に感じられるような教育というか、大人になってから急に農業に憧れるというのもないかと思うので、小さいときから職業の選択として「農業」というのが頭に浮かぶような教育というのができたらいいなと思います。

それで、農業が盛んに行われたら、そこから食、それから観光、いろんな意味で波及すると思いますので、まず、徳島で一番の産業であると思いますので、農業を身近に感じて、農業をしたいという人が増えるようなものが必要だと思います。

(青木部会長)

ありがとうございました。

では、知事、中間になるんですけども、ここまでについて御意見をいただけますでしょうか。

(知事)

もうここは具体的な施策がどんどん出てきているところで、例えばさっき竹内さんが言った話というのは、まさに今人口減少で、日本挙げて「コンパクトシティ」にしようというその発想なのね。これは、例えば徳島市ね。徳島市で高齢者の人たちがなるべく車の免許を返上して、そういうのがなくてもいいと。例えば、介護にしてみても、あるいは病院にしてみても、あるいは買い物にしてみても本当に楽にできるというね。事実上の移住みたいなものなんだけどね。ただ、その中山間地域にそれって言うと、先ほどあったように大変かもしれない。じゃあ不可能かということそうでもなくてね、確かにみんなそこに居続けたいというのがあるんだけど、例えば今、南海トラフの巨大地震で必ずそこには津波が来ると。我々「イエローゾーン」の指定を、全国で初めて今案を示しているところなんだけど、だったらその地区全体がね、さっき「誰かだけが行くとあとが大変になる」と。「じゃあ、集団で高台に移転しよう」と。じゃあ、高台に移転することがもし仮に合意になったら、中山間地域なんだけど、そこをコンパクトシティにしまえばいいわけなんですよ。だから、ピンチもチャンスにということで、「南海トラフ巨大地震、大変だ」と言うだけじゃなくて、「コンパクトシティにするきっかけにしよう。だから、みんな集団で移転しないか」というね。ここもさっきのネガティブに捉えるのか、ポジティブに捉えるかによって施策の方向がまったく違ってくるので、これは決して不可能じゃなくて、逆にそれをしていかないといけないし、今、日本全体はそれをしようとしているんですね。

だから、福島さんの言われた、さっき蔵本さんからも「是非私も名前を入れてよ」って

ね。私も入れてもらいたいんやけど、これは施策としてはまさにやるべき施策ね、もう具体的な話。つまり、確かに竹内さんが言ってくれたみたいに、本人が顔出すんだったら本人がオッケーって言ったら、逆にみんな載せてもらったら、迷惑どころか「載せてもらいたい」とワーワー来るわけだからね。逆にそこにいかに取捨選択、神山町方式ね、取捨選択して「いや、あなたちょっとね、あなたオッケーね」みたいなそういう基準がないといかんという部分はあるかもしれないけど、これは今やSNSの世界なんだからどんどん発信をして、さっき「徳島県人名鑑」と福島さんが言われたんやけど、私は「徳島名鑑」にしたらいんじゃないかと。

で、人物も例えば、農業ではかっこええって、かっこいい格好をして出してもらったらいいんよ。最近のテレビ番組ってさ、例えば、邦楽をやる人とかね、演歌を歌う人がえらいかっこええから、1メートル80センチ以上とかいってさ、最近出てるじゃない。「えっこの人がそれでど演歌歌うの」って。そのギャップがね、女性、特にここは何かさっき言ったどこをターゲットに、おばさま族にたまらないんだって。視聴率めっちゃめっちゃええんよ。

だから、そういうふうには誰をターゲットにするのかということもこれ重要だし、今言うようなかたちでそういう「かっこええ」というのをこういうところから出していけばいいのね。一時期「ガテン」という雑誌があって、これはいわゆる「土方」の人とかあいう人たちを、あのメットでボンタン履いているのがね、「これがかっこええぞ」というかたちで捉えて出してみようって。あれリクルートかな、どっかが出したのね。そしたら意外と「そういうのもお洒落でないの、鳶職とか」って言ってね。そういうのがどんどん広まってくると一つのブームになる。だから、どうやってそういうブームにしていくのか、そのきっかけを考えて、今やSNSでどんどん出せるわけだから、これは是非やっていくといいんじゃないかなと。

ここは、蔵本さんも言ってくれたように、いろいろピンポイントにすると同時に、全国大会、先ほど「俳句の全国大会」という話があったじゃない、考えたらこれスポーツにも応用が利くわけ。ちょっと考えるとね、例えば野球だったら黙ってたって「甲子園行きたい」とみんな言うよ。ラグビーやっている人は黙ってたって「花園行きたい」って言うんだよね。これわかる。でも、スポーツのジャンルってオリンピックだったらもっともっと種目があるのに、例えば普通のホッケーね、どこがメッカというところもない。アーチェリーどこ。みんな知らないでしょ。ハンドボール、みんなこれオリンピックに種目あるじゃない。でもないよね。だから、そういったものをね、いや一回はやったことがあるんだけどね、自治省を中心にして。あかんかったんよ。だから、チャンスなんよ、逆にね。だからそういうのに絞ってここぞと。

それともう一つは「マニアを集める」というね。一番それをやったのが「マチ★アソビ」じゃない。東京でしか絶対にできないということをやって大成功してるでしょ。そしたらみんな鳥取は真似するわ、富山は真似するは、今や大阪がやりたいと言ってやっているじゃない。

だからこういうかたちで、「誰をターゲットにするか」。それから、マニア性の高いものはリピーターを黙ってても呼ぶことができる。観光の話がさっき出たんだけど、観光が一番は一過性ではなくてリピーターなんよね。だからそれはさっき言うマニア、ジャンル、

こうしたものを文化でもスポーツでも選んで、じゃあ、ここはもう一つポテンシャルを考
えるのが重要。じゃあ徳島として、どれだったら持続可能にいけるかというものをしっか
り考えていくと。これはまさに対策になるし、先ほど小原さんが言った「阿波踊り」ね、
もうこれはなってるんだよね。つまりインバウンド、1千万ちょっと超えたんだけど、あ
の最初、観光庁のつくった一番トップバッター、何が出てくるかというとな阿波踊り。「娯
茶平」が出てくるくんよ。これでもわかるようにもう既になっているんだけど、逆に言う
とね、わりと徳島の人が一番知らないというおもしろい現象がこれあってね、「灯台下暗し」
ってそういう意味なんだけど。

だから、今おっしゃるそれはもう具体的な施策として、これからまさに進めていくべき
だし、まして、徳島市は12日から15日まで徳島市一色でやってるんだから、もっと言
うと、「徳島市の職員はみんな阿波踊りが踊れるんだ」。逆に言うと、職員採用に「阿波踊
りの踊れない人は採用されない」とかね。昔は小学校でも中学校でもみんなやってたとい
うね、徳島県は。今はやんないじゃない。だから、県庁でもいいんだけど、徳島市役所入
るんだったら絶対ね「阿波踊りちゃんと身につけておかないとあかん。お前はじかれるぞ」
って、だから入る段階で。県外の人とか、徳島市以外の人だってみんな必死に阿波踊りを
身につけて、「私は踊れます」って市長さんの前で例えば踊れるとかね。今度はそれが話
題になって、徳島県といたら「阿波踊り検定があるらしいぞ」とかね。「検定もの」と
いうのはなかなかおいしいわけ。だから、そういうのをやって、みんなが高円寺でも踊っ
ているけど「あれはだめ」とかね、「高円寺でもここの連だけ検定オッケー」とかね、あ
とは「たこ踊り」とかさ。やっぱりそのぐらい大胆にガツーンといかないと。だから、高
円寺が一時期ね、阿波踊りといえば、「東の高円寺、西の徳島」と言ったことがあるんだ
よ。カチーンときたから、春の「はな・はる・フェスタ」のときに阿波踊りコンテストを
つくった。あの部分だけは県が金出した。それでやったけどね、高円寺こんのよ、全然。
で、結局優勝したのはね、文理大学がずっと優勝したんだけど、目的が違うって。文理大
学でいいんだけど、県外から県人会の連が来たらみんな宿泊したりなんかするじゃない。
人が動くわけだから、これは観光的にもいいなと思った。でも一番のねらいは高円寺に
来さすこと。でも来たのよ。それで私は審査員の人に言ってたんだけどね、「絶対、優勝さ
すなよ」って。その後、来たというのは私も知らなかったんだけど。ちゃんと優勝できな
かったんよ。その後、私「座・高円寺」まで行ったんだけど、「本場徳島から知事さんが
来ていただきました」とコロっと変わった。それまでは高円寺に有名連が応援で行ったら
ね、何て沿道から声がかかるかというとな、「うわっ徳島でも阿波踊りやってんだから頑
張れよ」やって。みんな怒って帰ってくるわけ。でも今、全然変わったわけ。

ということで、いろいろな施策というのね、インパクトをもって、そして皆さんが言
ってきたことはまさに施策で、あとはやるだけ。あとは「どうやって発信していくのか」
とか、「どうやってそれを磨いて更に具体的なものにしていくか」という、もうそこまで
きてるので。で、福島さんのやつは、逆にすぐ取りかかってもいいぐらいでね。四国大学、
昨日、山本先生と一緒にあったけど、ちょっと言ってやってもらおう。包括連携協定結んで
るもん。よろしくお願いします。

(福島副部長)

かしこまりました。

(青木部長)

知事、ありがとうございます。

では、続きまして、石井さん、よろしくお願ひいたします。

(石井オブザーバー)

板野町役場総務課の石井と申します。

ちょっと皆さんの意見と重なる部分もあるかと思うんですけど、今まで自分自身が経験したり、友達の意見を聞いて感じたことは、やっぱり徳島県の人というのは、みんな都会への憧れを持っていると思うんですけど、やっぱり県外へ出て徳島のよさに気付く方という人が多いと思うんです。

ただ、一回都会へ出てみて、友達もそうなんですけど、「帰ってきたいと思ったときに、就職先、自分のやりたい仕事とかがなかなかないので、なかなか帰ってこれない」ということを聞いたりしたので、視察とか行かせてもらったんですけど、サテライトオフィスとかをもっと地元採用とかも取り入れてもらうように、Iターンとか、Uターンの支援とかもしたらいいかなと思います。

「徳島のよさ」というのは、「徳島は何もない」と確かに思うんですけど、それも私は魅力だと思うんです。自分も大阪の方で四年、大学のとくに住んでたんですけど、「何をすることも並ぶ」ところがすごい自分にとってストレスになって、例えば、服を試着するにも何十分も並びますし、ご飯食べるのにも並びますし、すごくストレスになるんですけど、大阪から友達を「一回遊びに来て」ということで、遊びに来てもらったときに、敢えて何もせずに喫茶店とかカフェに連れて行ったんですけど、すごく感動してくれて、「ゆったりお茶を飲む」というのがすごくいい、都会だったらぎゅうぎゅうのところでお茶を飲んで、でも並んでいるので早く帰れよ的なのところがあるので、そういう「ゆったりしたところ」がいいと思います。

「人口減少」というところで、徳島以外でも言えることと思うんですけど、若い方で先輩の子育てとか見たりして、すごく大変だなというのがわかって、結婚や子育てに希望を持ってない若い方が増えているなとすごく思うんです。なので、仕事をしながら子育てがしやすいような環境づくりと、出会いの支援とかもお願いしたいんですけど。あと最近、芸能人の方で妊娠をするために休暇を取るという「妊活」のための、それをもっと徳島県からというか、高齢出産が増えてきていると思うので、友達の話を聞いたりしたら、不妊治療とかすごいきついらしいんです。でも先輩とかでもいるらしいんですけど、妊娠しにくいので「ちょっと休みたい」と上司に言ったところ、「そんなんいいやん。仕事してよ」と言われて諦めた人もいると聞いたので、妊活のための休暇を取りやすい仕組みとか支援とかをお願いしたいなと思います。

「徳島が有する可能性」というのを考えたんですけど、この「若者クリエイティブ部会」のように、若い人の意見を県の方が聞こうとしてくださる姿勢がすごく感動というか、勉強にもなりますし、ありがたいなと思うので、違つかたちでもいいので、こういう輪が広が

っていけばなと思いました。

(青木部会長)

ありがとうございました。

では、続きまして、釋子さん、よろしく願いいたします。

(釋子オブザーバー)

東みよし町の釋子です。

「人口減少時代における地域を支える仕組み」についてなんですが、具体的な施策が思いつかなかったので、ちょっと感じたことを述べさせていただきたいと思います。

竹内さんと一緒にちょっとポジティブではない意見なんですけれども、人口減少時代には、高齢化による生活不安の増大といったマイナスのイメージしかわいてきませんでした。

2050年には、現在の人口が10万人以下の市町村では人口減少率が30パーセントで、6千人から1万人の市町村ではおよそ半分に減少するといわれています。

また世帯類型を見ると、現在の主流である「夫婦と子からなる世帯」は少数派となって、単独世帯が4割、その内、高齢者世帯の割合は5割を超えると予想されています。

人口減少と高齢化に伴い、社会保障費、行政コストの増大、住民税収や固定資産税の減少により、地域活力がますます衰退していく懸念があると思います。

東みよし町の山間部では、休校となった小学校を活用して、「増川の活性化を考える会」さんでは、その他に「ホタルまつり」とか、ウォーキングをメインにした「もみじまつり」を開催したり、都市住民との交流施設である「増川笑楽耕」で、そばやうどんづくりのインストラクターとして活動されています。

また、「守る会東山」さんという別の団体では、体育館で五月人形や雛人形を展示した「節句まつり」や運動会とバザーを開催しています。

「西庄良所会」さんというのもあるんですが、「西庄フェスタ」や「水の丸高原ウォーク」というのを開催して、ジュースなど、参加者おもてなしの活動をしています。

小学校が休校となり、「地域が衰退していくのを何とかできないか」と地元の元気な高齢者の方々が活動されています。

今の私たちの世代では、生活習慣が変わって、運動する機会も食生活も変化しています。現代社会の生活習慣病も増大していく中で、果たして今の私たちの世代が高齢者になったときに元気に活動できるのかというのがちょっと不安だなと思っています。

今後ますます増加する医療費や介護需要の増大に対応するためには、一人一人の健康づくり、で、それを支える医療や健康産業の振興、福祉や介護を地域で支える人材の育成が必要になってくると考えています。

(青木部会長)

ありがとうございました。

では、続きまして、板東さん、よろしく願いいたします。

(板東オブザーバー)

徳島県総合政策課の板東です。今日も非常に興味深い話が聞けて大変ためになるなと思っております。

私からはまず感想みたいなのところもあるんですけども、私は県外出身で就職して初めて徳島に来ました。今回の第2回、第3回、西とか南とか見せていただいたというのも、私は残念ながら3回目は欠席だったんですけども、やっぱりいろいろ行って見せていただいて、各地に非常にいろんなストーリーがあるんだなど。例えば、「平家の落人」、それから近くは「サテライトオフィス」とか。こういう物語・ストーリー、それから歴史・ヒストリー、こういうのが残っている、できつつあるというのが非常に興味深いと思いましたし、そういう地域社会が是非ともこれからも存続していただきたいなということ強く感じました。

高齢化というのは確かに非常に深刻だというのは肌身に感じたことではあるんですけども、それでも「増川笑楽耕」をはじめ、地域の高齢者の方の活躍というのは非常にめざましいなど。どちらかというとなんよりも、「その下の世代がいかにかその人たちの活動を受け継いでいくか」ということが、より喫緊の課題ではないかなということを感じております。

「必要な取組み」のところなんですけれども、飛躍するところもありますが、鍵となるのは、一つは理念的には「住民参加」ということ。それから、もう少し実際的なところとしては、「職とか収入の確保」ということ、この二つが大事なんじゃないかと思っております。

特に、「住民参加」について言えば、例えば、行政の立場に私たち今いるわけですけども、住民の方がお客さんになってしまうのでもなくて、それから、要望や不満を言う対象ということでもなくて、「自分自身がその一員である」というような意識を持っていただけということになればいいなというふうに考えてます。

ですので、行政としては、そのバックアップとかコーディネート、その芽を上手く見つけ出して育てていくということが、これから私自身もしていきたいなと思っております。

ですので、具体的には、個別の話ではないんですが、住民自治をもっと広げるような制度づくりに向かって県自体も変わっていく必要があるのではないかと考えております。

「本県の可能性」というところですが、皆さんのお話にもあったように、「生活を楽しむということ」は、非常に伸びていく可能性を秘めているんじゃないかなと思っています。特にスポーツとか文化とかそういった分野、そういった「楽しむ中でさらに仕事を創り出す」ということが、飛躍の可能性になるんじゃないかなということを感じております。

(青木部会長)

ありがとうございました。

では、続きまして、高木さん、よろしく願いいたします。

(高木オブザーバー)

若者クリエイト部会で視察の方を西部、南部とさせていただきまして、それで「増川笑楽耕」の方では、県外で起業された地元出身の方が、そこの地域振興のため会社の方を連

れてきて「増川笑楽耕」を活用されている事例とか、あと、サテライトオフィスも美波町で見させていただいたんですけれども、地元出身の方がサテライトオフィスを美波町の方に開かれて、地域の方と一緒にまちおこしをされているということで、ゆかりのある方というのが活躍されている事例を見させていただきました。

今日の新聞報道の中でも、2013年の転出者の人口というのが確か2万6千人ぐらいいらっしゃるというふうに書かれていたと思います。転出者が多いということはあまりよくないということになるかと思うんですけれども、逆に見ますと、年間2万人以上の方が、県外に徳島にゆかりを持った方が出て行ってもらっていると。徳島を知った方が県外に出て行ってもらって徳島をひろげてもらえるような、あるいは徳島に帰っていただけるような方がつくられていっているというふうにも見えるのではないかと考えております。

人口減少はなかなか歯止めは効かないと思いますので、そういったゆかりのある方、「つながり人口」というのは「つながった人口」ですね。「つながりのある人口」を増やしていく。また、できるだけ「つながる力」ですね、情報発信ということが先ほど各委員さんからあったと思うんですけど、情報発信の仕方を工夫したり強化することによって、「つながる力」を強めていって、ゆかりのある方と、そして地元に残った方と一緒に地域づくりというのを進めていけるような事例がこれからもできていけばいいのになというふうに考えております。

(青木部会長)

ありがとうございました。

では、続きまして、榊原さん、よろしく願いいたします。

(榊原オブザーバー)

吉野川保健所の榊原です。

先ほどの板東さんの話と少し被るところがあるんですが、やはり保健師として、これからの高齢化時代、特に団塊の世代が後期高齢者に入る頃というのは、施設も病院もどこも満床で、あとはどれだけ団塊の世代の方々が、元気にいきいきと長く地域で生活できるかというのが、これからの高齢者福祉対策になっていくのではないかなと感じています。

そこで、一つ先ほど板東さんが住民参加というのをおっしゃったと思うんですが、現役を引退されて間もない団塊世代の方々の今までの能力であったり知識、それからコネクティングを活用して、今、県、市町村が抱えている問題というのをその団塊の世代の方たちに解決方法を考えてもらって実際に活動してもらおう。で、そういう活動の内容を県が採択して、金銭的な補助であったり、その事業をバックアップするというような、住民が主体的にその問題を解決する。で、その方たちが取り組むことによってコミュニティだったり、町、地域というのが活性化する。で、団塊の世代の方も長く健康でその場で生活できるというのをつくっていかねばいけないのではないかなと思っています。

団塊の世代の方は特に、今のちょうど私たちの父親の世代になるかなと思うんですけど、インターネットもします。スマホも持っています。なので、同じ町内、同じ村、町に住んでいるというだけでなく、もっと広い意味でのコミュニティというのをどんどんつくって、新しい活動というのをこれから取り組んでいく必要があるのかなと思っています。

(青木部会長)

ありがとうございました。

では最後、島さん、よろしく願いいたします。

(島オブザーバー)

西部総合県民局の島です。よろしく願いいたします。

まず、県西部、南部の現場視察を踏まえまして、地域の担い手の減少が大きな課題だと感じました。その中で、地域を盛り上げよう、何とかして支え合おうって頑張っている地域というのはたくさんあって、例えば、県西部の過疎地有償運送「NPO法人こやだいら」であったり、視察させていただいた「増川笑楽耕」の皆さんなど、たとえ「限界集落」と言われるような地域であっても、あきらめずに創意工夫をされながら取り組んでいらっしゃるって、そういった高齢者の方というのは、自らが担い手となって御活躍されていていらっしゃるって、とても元気で活気に溢れているという現状を見させていただきました。

で、先ほど近森さん、福島さんがおっしゃってたんですけれども、地域をつくるのは「人」だよと。で、私自身も「人」だと考えております。

そうした中で、本県の一つの可能性としまして、私たち県職員一人一人が、自分が住んでいる地域に愛着を持って自治会で活動したり地域活性化に取り組んで、地域に根差した県職員として、地域の皆様とともに「地域を支える仕組みづくり」に取り組んでいけたらと感じております。

そして、それにはまず自分自身が地域の一若者として、地域イベントへの参加であったり、地域の魅力の再発見をしたり、自分自身が地域にとけ込んで地域に役立てるように頑張っていきたいと考えております。

そして、「人」に関連して、もう一つなんですけれども、岡田さんと、福島さんが観光の話をしていらっしゃるしまして、「いかに人を呼び込んで定着させるか」という仕組みづくりが必要かと考えておりますけれども、徳島が有する可能性として、「人の温かさ」というものが考えられると思います。

徳島県民というのは「おもてなしの心」という文化があって、自分の実体験として、今、県西部で勤務させていただいておりますので、「あわこい」というイベント、にし阿波の魅力を発見しようという体感プログラムがあるんですけれども、それに昨年度、大歩危祖谷のバスツアーに参加したときに、ご近所のおばあちゃんが声をかけてくださって「バスの時間大丈夫なの」とか、かかしを作っているお家に立ち寄りさせていただいたときにおもてなしをしていただいたりとか、そうした人のつながりというのが強く印象に残るものであって、それは一年前の話なんですけど、またあの方に会いに行きたいとか、今でも強く記憶に残っています。

そうした「人」の魅力というのも一つのポイントとして、知事もおっしゃってたと思うんですけれども、リピーターを増やして、そして人を呼び込むことで外部からの新たな視点ということで気付き、そして魅力をどんどん見つけて発展させていけたらと考えております。

(青木部会長)

ありがとうございました。

それでは最後に知事、本日16名の発言を聞いて、まとめの御意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

(知事)

まずは本当に皆さん、どうもありがとうございました。

また、皆さん自身が徳島の持てるポテンシャル、課題、そして今後の方向、こうした点を認識をいただいているところでもありますので、今日いただいたもの、あるいはこれから県、また県内市町村の皆さん、あるいは上手く民間の皆さんがやってくれている、こうしたものを更に皆さん方が、「いや、自分だったらこうしよう、ああしよう」とね、常にあらゆる面に感心を持っていただいて、もう「趣味は徳島県だ」と言えるぐらいになっていただければと思いますので、今日いただいた点については、もう既に施策にブラッシュアップできるものも多々ありますので、我々としてもしっかりとこれから取り組んでいきたいと思いますので、これからはどうぞ徳島に最大の関心を持って、いろんなかたちでの事業も進めていただければと思います。本当にどうもありがとうございました。

(青木部会長)

知事どうもありがとうございました。

それでは、このあたりで意見交換を終了したいと思います。

本日、皆さんからいただいた意見については、新たな政策創造の「種」、ヒントとして出ささせていただきましたので、事務局において、今後の県の施策等に役立てていただければ幸いです。

なお、一点御報告ですが、部会設置規程に基づき、部会の今年度の審議状況について、2月10日の総合計画審議会に報告書を提出することとしております。

内容等についてはメーリングリスト等で調整をさせていただきますが、基本的には部会長一任でお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それから次回の開催についてですが、来年度は、現行の「いけるよ！徳島・行動計画」の最終年度ということで、次期総合計画策定に向けた作業も始まってくるとは思いますが、クリエイト部会としては、総合計画審議会の一部会として、やはり夢と希望に満ちた未来の徳島へ向けて、若者の創造的実行力を更に発揮し、課題解決先進県・徳島の挑戦に向けて、積極的に関わっていきたくて考えておりますので、よろしくお願いいたします。

そういったことも念頭に置きつつ、次回の開催日程、テーマについて調整させていただきたいと思いますが、皆さん、よろしいでしょうか。

特に異議がないようですので、更なる進化を遂げたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。それではそのようにさせていただきます。

次回の日程等の詳細につきましては、「メーリングリスト」にて調整をさせていただきます。

たいと思います。

最後に事務局から何かございますでしょうか。

(事務局)

本日の会議録につきましては、事務局で取りまとめた上、皆様に御確認いただき、御発言者名も入れて、公開したいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

(青木部会長)

事務局から説明がありました、会議録の取り扱いについては、事務局の説明のとおりとさせていただきますよろしいでしょうか。

それでは、そのようにさせていただきます。

これで、本日の議事をすべて終わらせていただきます。

飯泉知事はじめ、御臨席の皆様には、議事運営に御協力いただき、ありがとうございました。

(事務局)

それでは、以上をもちまして、本日の若者クリエイト部会を閉会させていただきます。皆様、どうもありがとうございました。

(以上)